

# 公立高校の適正配置計画と 幕別高校の存続について



## 問

道教委は、昨年8月「新たな高校教育に関する指針」を示した。これによると、1学年3学級以下の管内19校中、幕別高校を含む11校が段階的な再編対象となる。去る6月5日の公立高校再編計画案では、2008年度浦幌高校の募集停止、2009年度分は帯広柏葉高校と帯広三条高校で各1学級削減とし、削減目標に足りない1〜2学級分は来年度以降に対応を決めるという極めて厳しい内容となっている。

これが現実になれば、遠距離通学の助長、学校間格差の拡大、受験競争の激化、入学者の都市部への過度の集中など、保護者や生徒に与える影響や問題は計り知れない。

今、地域社会に必要なかつ欠くことのできない教育機関（人材育成）としての「学校づくり」への努力や支援策が当該校・町当局・地域住民に求められている。

幕別高校存続に向けた考え方と対応について以下の点を伺う。

- ① 道教委の再編案に対する見解は。
- ② 今春町内から幕別高校への進学者と、地元進学が低率に推移している理由や要因は。
- ③ 存続問題に係って、これまでの取り組みと今後の支援策は。
- ④ 学力向上対策（進学率の向上）に助成するなど、更なる支援策は考えられないか。
- ⑤ 東部4町に公立普通科高校が1校もなくなる。連携した運動も必要と考えるがどうか。

案には盛り込まれなかったが、幕別高校の置かれている状況は大変厳しいものがあるかと憂慮している。

② 今春の町内中学生の幕別高校への進学者数は20人で、高校入学者総数69名の約29%を占めている。平成14、15年度当時には60名ほどが幕別高校へ進学しており、三分の一まで減少している。

地元からの進学が低率となった理由は、関係者によると、数年前に高校へ入学した生徒の一部ではあるが、生活態度などに問題があり、幕別高校のイメージが低下したことで、進学を控えた中学生やその保護者が進学先として選択しなかったことが大きな要因であると聞く。

現在、学校はすでに落ち着き始め、今春の入学状況をみても、昨年比べ、地元進学者を含め、回復傾向にある。

③ 平成18年5月に幕別高校や高校同窓会、PTA、町や教育委員会などの関係者が一堂に会し、意見交換会を開催、9月には関係者を広げ、「魅力的な幕別高等

学校をめざすための懇談会」を開催し、町内関係者が一丸となって魅力ある高校づくりに努力している。

幕別高等学校教育振興会が高校との連携のもとに取り組む「夢と活力ある事業」の実施に必要な経費として、補正すべく本定例会に計上した。

今後も多くの方の理解と協力で、幕別高校の魅力づくりに力を注ぎ、入学者の増加に結びつくよう努力したい。

④ 学力向上、進学率を高めるために、高校自らも頑張っている。教育委員会、PTA、同窓会等と連携し全体で盛り上げたい。

⑤ 幕別高校を存続させるために、4町で連携することには大事だと考える。調整や意見交換をしながら対応に努める。



サマーナイトフェスティバルで踊る幕別高校生